

北陸スペシャル くらし

節電の夏乗り切る

注目「ダウンアンペア」

2日から国と電力会社による節電要請が始まった。関西電力大飯原発3号機がフル稼働するまでは関西管内で15%、北陸電力管内で5%、フル稼働後も関西で10%、北電で4%の節電が必要だという。そんな中、家庭で使う電流の上限を引き下げる「ダウンアンペア」が注目されている。

電気の基本料金は、一度に使える電流「契約アンペア(A)」の量に応じて決まる。北電管内の一般的な家庭が契約する電気料金プランは「従量電灯B」で、50〜60Aの契約をしている家庭が多い。このアンペア数を下げるのが「ダウンアンペア」だ。

契約アンペアを超える電流を一度に使うと、自動的にブレーカーが落ちる。基本料金は60Aで月額13386円、50Aで11555円。10A下げると月に2000円程度安くなる。

北電によると、契約の変更は60A以下なら無料。アンペア数を上げる契約と下げる契約をあわせ、月に1千件程度の変更を扱い、相談は1日に100件程度あるという。

える効果はあるかもしれない」と話す。

最大値が変わるだけで、直接節電につながるわけではない。ただ、一度に電気を使うことを意識して控えるので、ピーク時の電力を抑

ただ、契約アンペアを変えるには工事が必要で、ブレーカー以外の配線も変える必要がある費用がかかるため、注意が必要だ。また、関西管内は契約アンペアの制度を導入しておらず、ダウンアンペアのためのブレーカー工事は各家庭の負担になるとい



暮ったエメとさん
ようたいとさん
「始めのまらし」を
古石曉子
福井市

実践して節約

福井県内の市民団体「ダウンアンペア作戦コンソーシアムふくい」は、昨年からはモニターを募ってダウンアンペアに挑戦してもらっている。会長の古石曉子さん(41)は「元々節電は好きでやってきたが、福島第一原発の事故を見て、少ない電気で過ごせる方法を伝え

たくなった」と話す。

子ども2人の4人家族。契約アンペアは15Aで、毎月の電気代は2千円程度だ。ダウンアンペアをすることで、使う電気の量を気にするようになり、結果的に基本料金が安くなる以上に電気代を節約できるようになったという。「クーラーをつけても、出かける30分前に切るとか、小さな工夫をすると無理せずに節電を楽しめる」とい

を冊子「始めよう 暮らしのダイエット」にまとめた。例えば風呂場などあまり明るさが必要な場所の電球のワット数を、60ワから20ワに変えるだけで、月2000円ほど電気代が下がるという。冊子の内容はコンソーシアムふくいのHP (<http://down.stopondanka-fukui.jp/>) からダウンロードできる。